

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

事業名	一般国道17号 ^{しづかわにし} 渋川西バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：群馬県 ^{ぐんまけんしづかわしなかむら} 渋川市中村 至：群馬県 ^{ぐんまけんしづかわしかない} 渋川市金井	延長	2.8km		
事業概要					
国道17号は東京都中央区を起点として、さいたま市、高崎市、前橋市等の主要都市を通過し、新潟市に至る延長約370kmに主要幹線道路である。渋川西バイパスは、群馬県と長野県を結ぶ地域高規格道路「上信自動車道」の一部を形成し、渋川市内の交通渋滞の解消と渋川・吾妻地域の連携及び活性化の支援を目的とした延長5.0kmのバイパス事業であり、そのうち2.8kmについて事業を実施している。					
H16年度事業化	H22年度都市計画決定 (バイパス区間)	H25年度用地着手 (バイパス区間)	H22年度工事着手 (現道拡幅区間)		
全体事業費	約215億円	事業進捗率 (平成31年3月末時点)	62%	開通済延長	0.9km
計画交通量	18,200~23,000台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 3.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 82/219億円 〔事業費：72/205億円 維持管理費：10/14億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 283/316億円 〔走行時間短縮便益：230/257億円 走行費用減少便益：46/48億円 交通事故減少便益：7.4/10億円〕	基準年 令和元年	
感度分析の結果					
【事業全体】交通量：B/C=1.3~1.6（交通量 ±10%）【残事業】交通量：B/C= 3.1~3.8（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.4~1.5（事業費 ±10%） 事業費：B/C= 3.2~3.8（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.4~1.5（事業期間±20%） 事業期間：B/C= 3.4~ 3.6（事業期間±20%）					
事業の効果等					
①交通渋滞の緩和 ・国道号下郷交差点～吾妻新橋南交差点付近の速度低下により、渋川市内の交通混雑が発生。 ・平成25年度の現道拡幅区間の開通により、並行する国道17号の旅行速度が約10km/h向上、渋滞損失時間が約70千人時間/年削減及び中村交差点南側流入部における渋滞長が330m減少され、渋川市内の交通混雑の緩和に寄与。 ・今後、バイパス区間及び上信自動車道の整備により、交通の円滑化が図られ、更なる交通混雑緩和が見込まれる。 ②観光活性化 ・草津温泉・万座温泉・伊香保温泉の観光入込客数は、群馬県内主要温泉地全体の約6割。 ・草津町の年間宿泊者数は平成22年から約3割増加。 ・渋川西バイパスの整備により、渋川伊香保ICから草津温泉までの所要時間が約24分短縮され、観光活性化に期待。 ③安全性・信頼性の向上 ・吾妻地域は大雨、豪雪や火山の噴火等、多くの自然災害が発生する地域。 ・国道144号、国道145号、国道353号及び周辺道路は、災害時に脆弱な道路であり、多数の通行規制が発生。 ・令和元年10月に発生した台風号により国道144号鳴岩橋が流出し、道路の崩壊が発生。 ・上信自動車道の整備により安全性、信頼性に優れた代替路線を確保。 ④地域の活性化 ・群馬県はキャベツの主産地（全国1位）であり、嬬恋村産の主な出荷先は、東北・関東方面が約6割を占める。 ・国道145号及び国道353号では、線形不良箇所が多数存在し、ドライバーの負荷が懸念。 ・上信自動車道の整備により輸送時間短縮と安定輸送が図れ、安定した地域の産業活動に寄与。 ・今後、物流現場においてダブル連結トラックなど多くの流通量を捌ける車両の導入によるドライバー不足解消等にも期待。					
関係する地方公共団体等の意見					
群馬県知事の意見：渋川西バイパスは、本県の渋川・吾妻地域の連携強化や活性化に大きく寄与する上信自動車道の一部（起点区間）であり、極めて重要な路線である。 コスト縮減を徹底し、効率的、効果的に事業を推進して早期完成をお願いしたい。					
事業評価監視委員会の意見					
事業の継続を承認する。					

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・国道17号鯉沢バイパスにおいては、平成20年7月に渋川市東町関下～渋川市白井間が4車線開通。渋川市白井～渋川市上白井間が暫定2車線開通。
- ・国道17号前橋渋川バイパスにおいては、バイパス区間が平成22年3月に暫定2車線開通。うち現道拡幅区間は平成24年3月に4車線開通。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成16年度に事業化後、平成25年12月に現道拡幅区間の渋川市中村～渋川市石原間 延長1.0km (4/4) 開通。
- ・バイパス区間は、引き続き用地取得を推進し、順次工事を実施しているところ。
- ・切土区間である渋川市入沢地先では、平成30年度より、橋梁下部を工事を実施中。また、盛土区間である渋川市金井 地先にて、平成29年度より、地盤改良工事を実施中。
- ・用地進捗率98%、事業進捗率62% (平成31年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・バイパス区間は、引き続き用地取得を推進し、順次工事を実施しているところ。

施設の構造や工法の変更等

- ・軟弱地盤改良の工法および軟弱地盤改良範囲に変更あり。
- ・渋川西バイパスでは、測量から施工計画や施工のプロセスにICTを活用したICT土工を全面導入し、作業の省力化等を取り組んでいる。
- ・土工の他、舗装工にもICTを全面活用し、生産性の向上による労務費などのコスト縮減を図っていく。

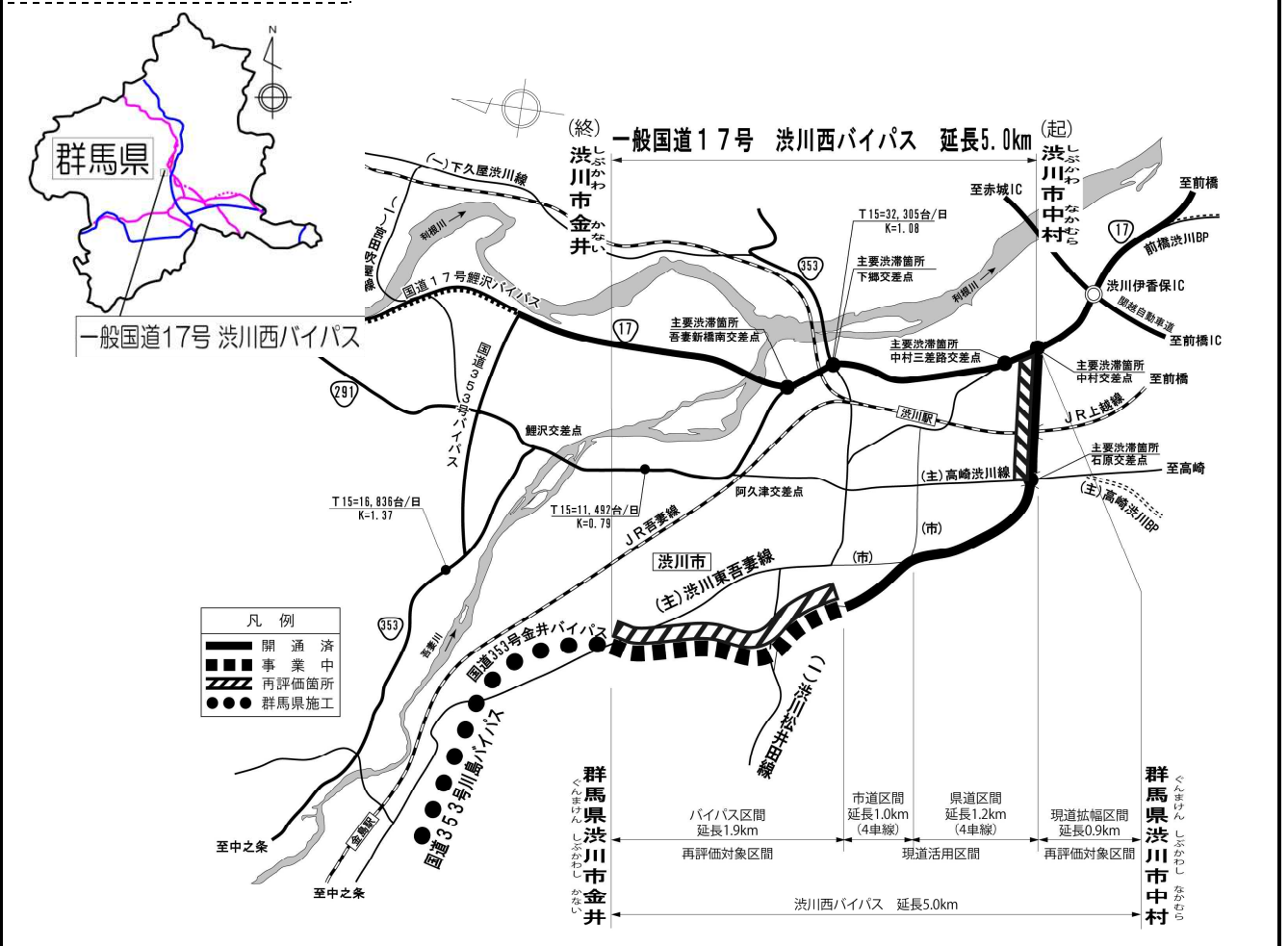
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。